

公立大学法人北九州市立大学中期目標

公立大学法人北九州市立大学は、産業技術の蓄積、アジアとの交流の歴史、環境問題への取組といった北九州地域の特性を活かし、①豊かな未来に向けた開拓精神に溢れる人材の育成、②地域に立脚した高度で国際的な学術研究拠点の形成、③地域の産業、文化、社会の発展と魅力の創出への貢献、④アジアをはじめとする世界の人類と社会の発展への貢献を基本理念とする。

この基本理念の実践に向けて、次の基本的な目標を掲げ、これを達成するための中期目標を定める。

基本的な目標

1 教育

質の高い教養教育と専門教育を学生に提供し、豊かな教養と国際感覚に加え、確かな専門性を兼ね備えた人材を育成する。また、21世紀のフロンティアを切り開く高度な専門知識を持つ職業人と優れた研究能力を持つ人材を育成する。

2 研究

先端的、学際的な領域では、特色ある分野の研究において国際水準の研究成果を創出するとともに、各専門分野では、国内をリードする研究の達成を図る。

3 社会貢献

地域社会の教育的、経済的、文化的なニーズに応じて、教育研究の成果を積極的に地域社会に還元し、地域社会の課題解決と地域活力の創造に貢献する。また、国際的な学術交流と人材育成を通じて、アジアをはじめとする国際社会の発展に貢献する。

4 組織運営

迅速で柔軟な意思決定システムと点検・評価の体制を構築し、常に組織運営の改善を図る。また、地域社会に期待される大学としての説明責任を果たすとともに、運営の透明性の確保に努める。

第1 中期目標の期間

平成17年 4月 1日から平成23年 3月 31日までの 6年間

第2 教育研究の質の向上に関する目標

1 教育

(1) 教育内容と成果

ア 学部における教養教育では、大学での学習への適応力と学習意欲を高め、英語などによるコミュニケーション能力、IT活用能力、課題解決に向けた実践的な能力を重点的にはぐくむとともに、学部専門教育のための基礎能力を養う。

イ 学部における専門教育では、それぞれの分野における専門基礎学力の修得を図るとともに、広い視野から物事を俯瞰^{ふかん}できる能力と社会で通用する実践的な能力をより高める。

ウ 大学院教育では、それぞれの専門領域における優れた研究能力と高度な専門知識に加えて、学際的視野と国際性を身に付けさせ、アジアをはじめとした国際社会や北九州地域の発展に貢献できる人材を養成する。

エ 専門的知識と能力の育成に特化した実践的な教育を実施し、マネジメント能力に優れた高度専門職業人を養成する。

(2) 教育方法と学習指導

ア 各学部・大学院の教育目標を実現する体系的な教育課程に即した多様で効果的な授業形態や学習指導方法により、学生にとって魅力ある授業を提供する。

イ 学生が主体的な学習に十分取り組むことができるように、学習相談・学習支援の体制を整備する。

ウ 授業科目の到達目標と成績評価基準を明示し、学生の学習意欲を高める成績評価システムを構築する。

エ 学生による授業評価など教育活動の評価システムの導入、教員の組織的な研修の実施などにより教育の質の向上と改善を図る。

(3) 優秀な学生の確保

ア 大学の育成すべき学生像に沿って学生の受入れ方針を明確に定め、多様な選抜方法を開発し、導入する。

イ 大学院においては、他大学や海外の大学の出身者、職業経験者の入学を促す方策を講じる。

(4) 学生への生活支援・就職支援

ア キャンパス生活の充実に向けて、学生の生活相談、進路相談、メンタルヘルスなどに的確に応えることができる支援体制を整備するとともに、学内外における学生の自主的活動への支援を強化する。

イ 学生の就職活動への相談・支援の体制を強化する。

(5) 教育の実施体制の整備

教育研究の進展、時代の変化、社会的要請に柔軟に対応するとともに、大学の教育目標を実現するために必要な教育研究組織を整備する。

2 研究

(1) 目指すべき研究の方向と水準

ア 学術文化の探求を通じて社会と地域の発展に寄与するため、研究活動の高度化を図る。

イ 次世代産業の創出や地域産業の高度化につながる分野、公共政策などの地域の課題に関する実践的な分野、地理的近接性がある東アジア地域をテーマとした分野などを重点研究分野として、個性的な研究活動を展開する。

(2) 研究の実施体制の整備

ア 学内外での横断的な共同研究を活発化させるなど、研究の実施体制を強化する。

イ 全学的な観点から、重点研究分野に弾力的に教員を活用できる体制を整備す

る。また、特徴的で質の高い研究ができるように、効果的な研究環境を整備する。
ウ 産学官の連携による優れた研究成果を地域社会に還元し、地域の課題解決や地域産業の活性化に寄与する。また、産学官の連携を推進するに当たり、利益相反に関する方針・ルールを整備する。

(3) 研究評価と成果の管理

ア 研究成果や業績などの評価システムを導入し、評価結果を研究の質の向上につなげる体制を構築する。

イ 知的財産の創出、取得、管理、活用を推進する体制を整備する。

3 社会貢献

(1) 教育機関との連携

ア 北九州市立大学が中心となって、北九州地域における特色ある大学コンソーシアムの形成を目指す。

イ 地域の高等学校や小・中学校と連携し、地域の特色ある教育の充実に寄与する。

(2) 地域社会との連携

地域社会に開かれた大学として、知的活動の成果や施設などを積極的に開放する。また、自治体や公共的団体などとの連携を進める。

(3) 国際交流の推進

ア 東アジア地域との教育研究の連携強化や国際協力の推進により、「アジアに開かれた学術研究拠点の形成」を目指す。

イ 海外の大学・研究機関との学術交流・人的交流を進め、国際的視野からの教育研究の充実を図る。また、外国人研究者や留学生を積極的に受け入れるとともに、学生の留学を進める。

ウ 地域団体などとの連携を図りつつ、市民の多文化理解の向上や地域の国際化を推進する。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 経営戦略を実現する機動的な運営

(1) 機動的な運営体制の確立

ア 理事長と学長の権限と責任の明確化により、迅速かつ適切な意思決定の仕組みを確立し、戦略的かつ機動的な大学運営を実現する。

イ 各学部などは、大学全体の運営方針に立脚して、学部長などを中心とする機動的な運営の仕組みを確立する。

(2) 学内資源の効果的な活用

ア 限られた学内資源を効果的に活用するため、全学的な観点から人員配置や予算配分などを行う。また、戦略的な資源配分を可能にする柔軟なシステムを確立する。

イ 教員と事務職員がそれぞれの使命と役割に応じた一体的な業務運営を行い、総合力のある運営体制を構築する。

(3) 外部の知見の積極的な活用

社会の期待に応えるため、学外の有識者や専門家を必要に応じて登用するなど、社会に開かれた大学運営を目指す。

2 人事の適正化

(1) 教職員の人事評価システムを整備し、評価結果に基づく適切な処遇を行い、活動意欲の向上を図る。

(2) 教職員が最大限に能力を発揮できるように、雇用、勤務、給与などの形態の多様化を図るとともに、柔軟な運用を可能とする人事制度を構築する。

(3) 性別や国籍などにとらわれない透明性の高い登用により、優秀な人材を適切に確保する。

第4 財務内容の改善に関する目標

1 自立性の高い財務運営の確立

(1) 財源の多様化を図るため、外部資金を積極的に獲得するための体制を充実し、安定的な財政基盤の確立に努める。

(2) 収入を伴う自主事業の拡大と適切な料金の設定により自主財源を充実し、教育研究環境の向上を図る。

(3) 全学的な観点から管理運営業務の効率化や人員配置の適正化などを進め、管理的経費の抑制を図る。

2 適正な資産管理

資産を全学的に運用し、管理する仕組みを整備するとともに、資産の効果的、効率的な活用を図る。

第5 教育研究及び組織運営の状況について自ら行う点検評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

公立大学法人としての説明責任を果たすため、自己点検・評価と第三者評価を厳正に実施するとともに、評価結果を運営などの改善に反映させる。また、評価結果をはじめとした情報を積極的に公開し、大学に対する社会の理解の促進に努める。

第6 その他業務運営に関する重要目標

1 施設・設備の整備

教育研究活動の活性化、学生活動の支援、地域貢献の充実に資するため、長期的な計画に基づき、施設・設備を整備する。

2 安全管理など

日常の安全衛生管理と事故防止のための体制を整備し、安全なキャンパスづくりを進める。また、情報セキュリティ対策の充実に努める。

3 人権の啓発

教職員と学生の人権意識の向上を目指した取組を積極的に実施する。